

インプラントの臨床が変わる ティッシュ マネージメント

新MGS法によるテルプラグ・テルダーミスの応用



抜歯創の良好な治癒、
インプラント周囲組織改善の
処置のために。

優れた材料、テルプラグ・
テルダーミスと、簡潔な手技で
成功を導く。

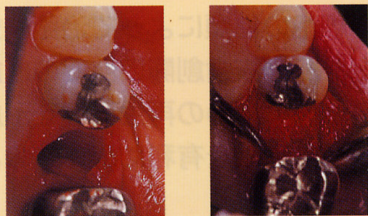
(テルプラグとテルダーミスは、オリンパス・
ルモ バイオマテリアル社製の商品名です)

インプラント治療の良好な予後に必要となる、
抜歯窩の組織再生、角化歯肉の増大といった
歯周組織の改善のために、難しい手術ではなく、
成功する方法が考えられた。それがコラーゲ
ン材を組織再生の足場とする方法である。

著者 児玉 利朗

B5判 90頁/定価 7,000円+税

テルプラグ適応



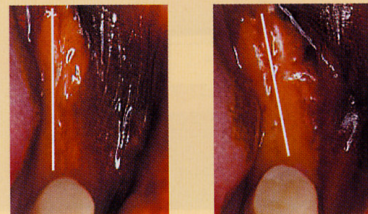
テルプラグ未使用

テルプラグ使用後

切開線

使用・未使用
どちらで
インプラント
しますか？

テルダーミス適応



テルダーミス未使用

テルダーミス使用後

(白線は想定切開線)

注
文
書

●インプラントの臨床が変わる ティッシュ マネージメント

冊

ご氏名 (医院名)

ご住所

TEL

()

●お取扱いは

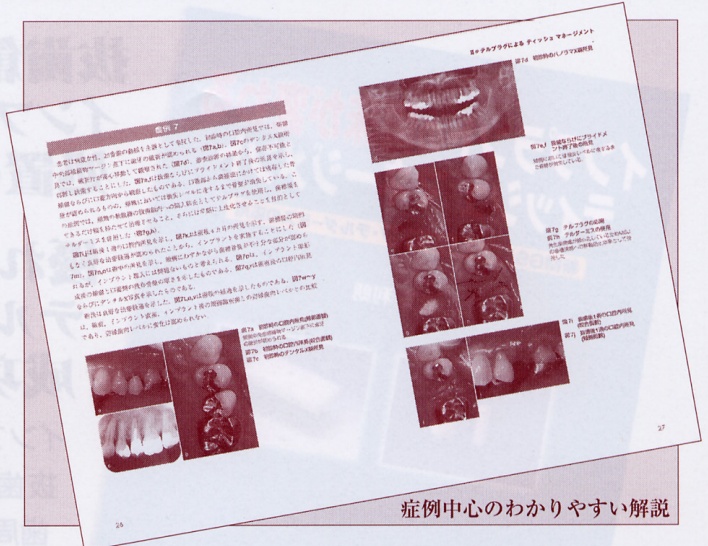
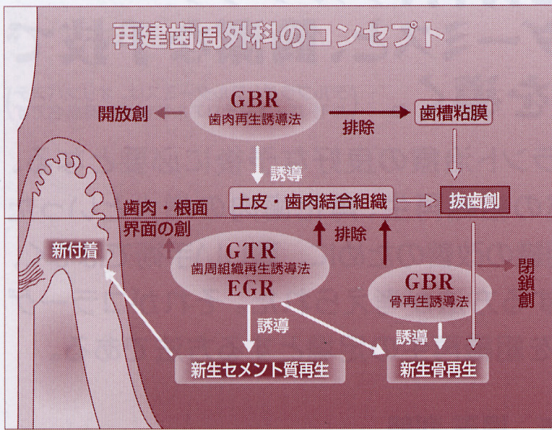
●発行

医学情報社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-4-6
TEL 03-5684-6811 FAX 03-5684-6812

歯周組織の再生・改善が、予後を確実に有利に。

著者は、生体材料アテロコラーゲンの基礎と臨床の研究を20年以上にわたり行ってきた。はじめは、アテロコラーゲンのバリアーメンブレンの開発研究を行い、その後テルダーミス、テルプラグの研究を行ってきた。

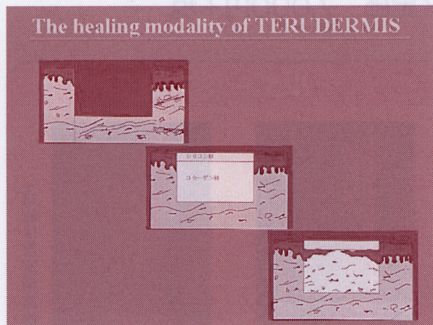
テルダーミスは、本来人工真皮として形成外科領域で開発されたものであった。試行錯誤のなか、生着型もしくは組織再構築型と分類されるテルダーミスを単なる創傷被覆材としてだけでなく、角化歯肉の増大



に応用できないかと考えた。角化歯肉の結合組織の線維芽細胞だけを選択的にスキャホールド（足場）としてのコラーゲン層に取り込むことが、角化歯肉の増大を達成できることになり、再生療法としての新MGS法の基本概念と位置づけることが可能と考えられたのである。

テルプラグについても拔牙創を再生領域として捉えた場合、スキャホールドに取り込まれる細胞の種類によって治癒様式

が異なることになる。そのことから、拔牙創開口部での血餅保持と骨由来の骨芽細胞の取り込みのための再生環境を形成することが、結果的にインプラント治療を有利に導くものと考えられる。（あとがきより）



目次

1. テルプラグ、テルダーミスの構造と特徴
 2. テルプラグによるディッシュマネージメント
 - 1) インプラント治療における拔牙創治癒の概念
 - 2) 拔牙前後に考慮すべき要因
 - 3) 症例
 - コラム：縫合テクニック
 - コラム：ブレードインプラント撤去後の歯槽骨再生の差異から考えられる要因
 3. テルダーミスによるディッシュマネージメント
 - 1) 創傷治癒様式における新MGSの概念と適応症
 - 2) 歯肉供給側における治癒様式
 - 3) 角化歯肉増大法（歯肉再生誘導法：GGR）
 - コラム：歯肉再生誘導法（GGR）の概念による角化歯肉増大法の有用に関する研究
- コラム：矯正治療のための便宜拔牙での治癒形態は？